

道徳通信 No.2



安田中学校
文責 元久
令和6年12月23日

2024年1週間余りとなりましたが、生徒のみなさんはさまざまな学校行事や授業、部活動などを通して、体だけでなく心の成長も図れた1年だったでしょうか。

2学期に行った道徳の授業からみなさんの感想を紹介します。学年が上がるにつれて、より社会的で深い内容について思考を巡らせていることが感じられるかと思います。

1年：ミスター・ヌードルー安藤百福一

誰もが考えもしなかったアイデアを生み出し、それを創り上げた安藤百福さんの生き方を考えることを通して、想像力を働かせ、好奇心・探求心をもって探求することの大切さについて考えました。

- 創造することでより良い考えが生まれるだけでなく、他の人の生活が楽になったりする。もし創造することをやめると、マイナスな考えが増えて良くない影響を与える。安藤さんの生き方から別の視点や広く考えると良く、あきらめない方がいいとわかりました。
- 創造することによって、新しい世界を広げていける。やめてしまったら、今の自分から変わっていけない。また、安藤さんは世界の人々のために創造していてすごいなと思った。
- 創造すると今までになかったことを考え続けているから、やめると現状が何も変わらない。工夫ができないから常識通りの同じようなことしかできない。なので、僕は何事も創造して自分なりに工夫したら可能性が見えるから、それを目指して頑張りたい。

2年：ネパールのビール

ネパールの山岳地帯に暮らす少年チェトリが「ビールを買ってきてあげる」と言って出かけてから帰ってくるまでの筆者の心の動きを理解することを通して、人を信じ切ることのできない弱さとそれを乗り越えたいと願う気高さに気づき、人間としての誇りや深い人間愛について学習しました。

- 自分は今まで筆者のように自分の欲や弱さに負けたことがあったと思います。チェトリ君は自分には何の得もなく筆者しか得をしないのに、体がボロボロになってまで筆者にビールを買ってきてあげたことは本当にすごいことだと思うし、とても心がきれいな子だと思いました。チェトリ君と自分を比べるとどれだけチェトリ君は心優しいのかと

思ってしまう。これからはチェトリ君のような純粋な人になって、自分の弱さに負けないようにしたいです。

• 一度決めていた「ビールは飲まない」を自分の欲に負けて行動してしまい、チェトリ君に大変な思いをさせてしまった筆者。「自制心」が必要だなと思いました。純粋な子どもの言葉を大人が真に受けるべきではなかった。それを利用するべきではなかったのだと思います。これからも自分よりも小さな子どもと関わる機会があると思います。子どもからの素敵な誘いも先を読んで行動をしていきたいと思いました。

• 私は普段から家で、部活で疲れたということを使い訳にして、ものを取ってもらったり、お風呂に入る時間が遅れてしまうことがあります。自分の欲望だけを貫くのは集団生活において良くないことだと改めて気づかされました。今後は気を付けていきたいです。

3年：ドナー

二つの投書の意見の根底にある命に対する感じ方や考え方を探り、生命倫理の問題について考えることを通して、命の尊さや自他の生命を尊重することを考えました。

- 臓器移植をしないことは全く悪いことではない。結局は臓器を提供しようがしなかがうが死んでしまうことに変わりはない。忘れられない限り本当に死んだことにはならないのだから。
- 臓器提供をして一人でも多くの方が助かるんだったら提供した方がいいと思ったけど家族の臓器提供はしたくないです。
- 自分はまだ親の立場になったことがないので、子どものことなどは想像でしかないけど、自分の臓器はあげてもいいけど家族の臓器はあげたくないです。けど、欲しいという気持ちもあってなかなか難しいです。けれど、焼いてなくなるくらいなら誰かにあげた方が助かる命もあるので僕はあげます。
- 自分がもし脳死になったら自分は生きていないのと同じだから、好きに使ってもらってもいい。自分が移植してもらいたい時にももらえるならそれと同じように誰かに渡すことが大切だと思う。家族がそんな状態なら本人の意思を尊重したいと思った。

家庭で取り組む高知の道徳について

冬休みは家族で大掃除やお正月の準備をし、一緒に過ごす時間が多くあると思います。「家族の一員」として何ができるか、おうちの人と話し合っ



合って「家庭で取り組む高知の道徳」P.41 に記入してみましょう。
〈返信〉 ()年 氏名 ()